

さばかん つうしん

さんばんぜかんきょうがくしゅうかん



ふなばし三番瀬環境学習館、ふなばし三番瀬海浜公園から、毎月情報やメッセージをたくさん掲載している「さばかん通信」。ぜひご利用ください。

今月のテーマ

アサリを新鮮に持ち帰ろう

いよいよ潮干狩りのシーズンです。採れたて新鮮なアサリ、しかも自分の手で採ったものならその美味しさもひとしおはず。ですが、せっかく楽しみにしていたのに持ち帰り方が良くないと、「アサリが死んでしまった」「弱って砂を吐かない」といった事が起こってしまいます。今回はアサリを新鮮なまま持ち帰るためのポイントをご紹介します。

アサリの特徴を知って上手に持ち帰ろう

アサリはスーパーでも見かける身近な食材ですが、命もった生きものです。生活している環境から移動させるので、弱らせないための準備と工夫が必要になります。

持ち物チェックリストを見てください。

上手に持ち帰るための **チェックリスト**

- ✓ ペットボトル (大きいサイズ)
- ✓ クーラーボックスまたは保冷バッグ
- ✓ 保冷剤または氷
- ✓ 新聞紙など (保冷剤や氷を包むもの)

忘れ物ないかな?

また、家で砂抜きをするために、海水を空のペットボトルに入れて持ち帰ると良いでしょう。濃度3%の食塩水でも代用できますが、アサリが暮らしている海の水の方がよく砂を吐いてくれます。

今や手軽に何でも手に入る便利な時代になりました。だからこそ、貝探しや持ち運び、砂抜き等の手間を楽しむのも潮干狩りの醍醐味かと思えます。(岩瀬)

[参考文献] 中川義彦 (1996) アサリとヤマトシジミの砂抜きについて。釧路水試だより, 74.

記事を書いた人 公園スタッフ 岩瀬



去年の夏にサーフィンをはじめてから休日は外房の海へ通っています。少し沖の方へ行くと視界には誰もいない私だけの景色が広がっている気分になります。いろいろな海へ行くことが夢です。



元気に水管を伸ばすアサリたち

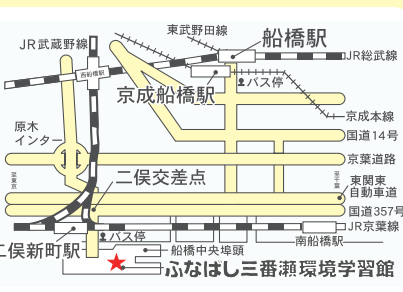
実は、アサリは海水につけていなくてもある程度の時間は生きていられます。ですが、真水やぬるくなった海水の中に入れると弱ってしまいます。なので、バケツに入れた海水にアサリをつけたまま持ち帰るよりもアサリを海水からとり出し、保冷剤や氷を入れたクーラーボックス等に入れて持ち帰る方法がおすすめです。その際、注意すべきはアサリを保冷剤や氷に直接接触させない事です。新聞紙等で保冷剤や氷を包むといった対策が必要です。

海水

保冷剤

アサリと一緒に海水も持ち帰る

たのしみだな〜♪



ふなばし三番瀬環境学習館

[開館時間] 9:00~17:00 [休館日] 月曜日(祝日・休日と重なった場合は次の平日)、5/2は開館 [アクセス] 電車・バス: JR船橋駅・京成船橋駅、JR二俣新町駅から京成バスシステム「船橋海浜公園」行終点下車/車: 国道357号二俣交差点を「船橋中央ふ頭」方面へ(駐車料金 普通車:500円) [お問い合わせ] 〒273-0016 千葉県船橋市潮見町40 E-mail: pr@sambanze.jp TEL: 047-435-7711 FAX: 047-435-7712 HP: https://www.sambanze.jp/

野鳥インフォメーション

キアシシギは三番瀬では春と秋の渡りの時期に観察することができます。その名の通り、黄色い足が特徴です。干潟でカニや魚、突堤付近でフナムシなどを食べています。(大谷)

